

わたしの修習時代

紀尾井町：1948－70

湯島：1971－93

和光：1994－

60期(2006/平成18年)

横浜修習の思い出

会員 五島 康明 (60期)

1 修習の概要等

私は、第60期司法修習生として、2006年4月から2007年8月まで1年4ヶ月間の司法修習を受けた。

修習のスケジュールは59期とほぼ同様であるが、前期修習と後期修習が1ヶ月ずつ短縮された点が異なる。そのため、前期修習では起案の仕方を覚えるのに必死であったし、後期修習では終始二回試験対策に追われ、非常に慌ただしい日々であった。

なお、私は当時既に結婚していたが、第一子の産休・育休中であった妻の協力により、時間的な制約を受けることなく修習に専念できたことは幸いであった。

2 横浜での実務修習

慌ただしかった前期修習・後期修習とは対照的に、従来通り1年間の期間が確保されていた実務修習では、じっくりと修習に取り組むことができた。

実務修習地は横浜であったが、横浜は、東京と大阪に次ぐ大所帯であり、109人の修習生が配属され、4つの班に分けて修習を行った。

裁判修習では、事件記録と格闘する日々の中、同じ部に配属された修習生同士で、先輩方から引き継いだ「グルメマップ」を参照しながら、中華街などへ繰り出す昼休みが、何よりの楽しみであった。

検察修習では、担当していた事件の被疑者調べ中に第一子が生まれ、数日間欠席したので、捜査を完遂できなかったことは残念だったが、産院に駆けつけるため早退した時には、全員の拍手で送り出され、修習に復帰した時には、修習生室の壁に、「誕生おめでとう」という手作りの横断幕が設置されていた。班員が一堂に

会する大部屋修習ならではの出来事であった。

弁護修習では、横浜港一望の高層ビル内にある事務所配属され、高所恐怖症である私は、日々、足がすくむ思いであったが、依頼者との接し方から心身の健康の保ち方まで、極めて実践的なご指導を頂き、現在の業務の基礎となっている。

3 班の仲間たち

実務修習の開始に際し、各班の班長を決めることとなり、経緯は失念したが、私が「横浜修習A班」の班長に選ばれた。

私は、自ら先頭に立って周囲を引っ張っていくタイプではないため、何をやるにしても班員全員を巻き込むようにし、班内の風通しを良くすることに努めていただけであるが、人間味溢れるメンバーが集まっていたお陰で、極めて班員同士の仲が良い班となった。スキー、温泉旅行、班員宅での鍋パーティ、駅伝大会への出場など、修習時間外の思い出も数え切れない。

班員同士の親密な関係は修習を終えた後も続いており、定期的に家族ぐるみで集まっているほか、班員同士の結婚や、班員同士で設立された事務所もある。また、班内の連絡用に設置されたメーリングリストは、現在でも、雑談や仕事の相談などで投稿が絶えず、累計投稿数は約2800件に及んでいる。先日、熱海にて行われた10周年記念大会では、公式日程終了後、居酒屋に集合し、班としての10周年も祝った。

このように公私共に深くつきあえる一生の仲間を得られたということは、修習時代における最大の成果かもしれない。